

飯能県税事務所長賞

二〇五〇年の税金について考える

向原中学校 三年 関 菜々子

税の作文の課題が出される前は税金についてあまり考えたことがありませんでした。消費税以外に、税金が約五十種類もあることを初めて知って驚きました。母の話によると、消費税は、働く世代など特定の人に負担が集中することなく社会保障の充実安定化のため創設されたそうです。最初は三%で、それが五%、八%になり、今は一〇%となっています。日本では、どうして、徐々に税金がこのようなに多く必要になってきているのでしょうか。

私はず、思いついたことは少子高齢化です。学校から配布された資料「令和五年版わたしたちのくらしと税」によると、国の財政の歳出では、社会保障費が三二・三%と一番使われていることが分かります。社会保障費は医療、年金、介護、子育てなどの公共サービスのことをいいます。日本では、二〇五〇年には、国民一・三人で高齢者一人を支えないといけないくらい高齢化が進み、ますます社会保障費（年金や医療、介護など）が必要であることが分かりました。高齢者のことばかり考えてもだめで、税金を負担する働き手が減っていくと、一人ひとり高齢者を支えていく若い世代のための政策も同時に必要になってきます。日本では子供の出生率が急激に下がっています。出生率を上げるためには、少子化対策（医療費の無料化や待機児童の解消、幼児教育・保育費・高等教育の無償化）

などが必要です。今でさえ一〇%なのだから、私たちが将来、自らの所得から納税するようになった時、どれほどの負担がかかるのかとても心配になりました。私たちが今以上に社会保障制度に支えられることを考えると、税について真剣に考えないといけないと思いました。

私の母は、公務員で社会福祉関係の仕事をしているので、近年、新型コロナウイルスの感染症対策でかなりの税金が使われていますが、それだけでなく、コロナ禍で失業し生活困窮した方への貸付金、給付金、生活保護なども税金で支えていることを教えてくれました。税が正しく使われているのか、負担は適切であるか。税を納める一人として、しっかりと税のことを調べ、向かい合っていくことが必要だと感じました。税金を無駄に使えば消費税などの税金がどんどん多くなってしまいます。医療費が無料になっていますが、必要以上通院することや救急車なども必要以上に使わないようにしないといけません。学校の教科書も国民が一生懸命働いて納税した大切な税金から使われていることを考えると、大切に使い、授業を受けないといけないと改めて考えさせられました。また、限られた税金なのでどのような用途に使うのかを見極めないといけないので、選挙にも関心を持ち積極的に参加しないといけないと思いました。これからいっぱい勉強をして就職して税金を納めていこうと思います。